

告 辞

陽の光や頬を撫でる風に春の訪れを感じます本日、ここに関係各位のご臨席のもと、令和4年度 佛教大学 第55回大学院学位記、第71回卒業証書、第45回別科（仏教専修）修了証書 授与式を挙げていただきますことを大変嬉しく思います。卒業生、修了生の皆さん、誠におめでとうございませぬ。皆さんの卒業、修了を、佛教大学教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。

皆さんが今日という日を迎えることができたのは、お一人お一人の努力の成果であることはもちろんですが、それに加えて、皆さんを温かく見守ってこられたご家族やご友人など、皆さんを取り巻く周囲の方々のご理解とご支援があったからに他なりません。ご家族やご友人、保護者の皆さまには、今日までのご支援に対し、敬意と感謝を表し、心よりお喜びを申し上げます。

皆さんにとってこの三年間は新型コロナウイルス感染症に翻弄された学生生活であったらうと思ひます。課外活動やアルバイトはもちろんで、正課である授業についてもリモートばかりの時期を経験したこともあったでしう。食事は仕切りで囲われた中での黙食、友だちとの出合ひや語らいなどについてもさまざまな制限を受け、私たちの活動そのものがあらゆる場面で制限されるものとなりました。大声で笑うこと、口角泡を飛ばしての議論、歌うことや握手さえもできない状況となりました。大学に通学することもできず、道すがらご近所の方々に挨拶することさえままならず、マスクで人の表情も分からず、どうかすると人の素顔を知らないままに終わることすらもあったかもしれませぬ。これは本当に残念な状況であり、人と出合ひて話すこと、一緒におしゃべりしつつ食事すること、大声で笑いあうこと、相手の表情を見て話すというそれまで当たり前であった日常が、かけがえのない大切なものであったことに気づかされた方も多ひと思ひます。

コロナ禍以前のように学生生活を謳歌できず、大学生であることを実感できずに悩まれた場面もあったことと思ひます。しかし皆さんは、それまでの常識では考えられない社会状況と困難な生活を経験し、それをしっかりと乗り越え、今日にいたっているのです。想像もしていなかった苦しく、また困難な日々直に直面しながらも、その中で自分にできることが何かを考え、それを行ひ、持てる力のすべてを振り絞って着実に前に進み、本日の卒業・修了にたどり着かれています。その最中では、苦しかった場面もきっと多かつたことではしう。しかし見方を変えれば、皆さんは貴重な経験をされ、その経験を通して大きく成長できたことと思ひます。そして、それらの経験は、必ずや皆さんの将来に役立つ糧となることは間違いありません。そしてこれこそが、眼の前に起こる現実をしっかりと見据え、自分のなすべきことをなすという仏教精神に他ならないのです。佛教大学での学びを終えた皆さんには、一人ひとりの学びと経験が仏教精神そのものであることを理解いただいたうえで、誇りをもって本学から巣立っていかれるものと信じています。

一方、世界に目を向けるならば、私たちの社会は不安定・不透明な要素に満ちています。ロシアのウクライナ侵攻は一年を経過しても未だ収束の糸口さえも見出せません。本学は仏教精神により人類福祉の増進に貢献することを使命としており、世界の平和を願いながら、すべての活動を行っています。一方的な理屈によって他者の命を奪い、人の尊厳を踏みにじる行為には断固として反対し、停戦と平和的な解決を求めています。私たちは、今現在も苦しみの最中にあるウクライナの人たちに心を寄せ、一刻も早く平和な状態が戻ることを願い、そのためにいま私たちができることを行っていかなければなりません。

紛争は世界各地で起こっており、難民問題や人種差別など、世界中で平和が脅かされ人権がないがしろにされている状況があります。それは遠い世界のことでなく、私たちの日本も決して安全で安定した状態にあるわけではありません。また、差別やいじめ、他者への中傷等、さらには身勝手な理由による事件や事故など、私たちの身近でも家庭の平和が脅かされることが起き、人権侵害の問題も枚挙に遑がありません。そして、私たちは誰もがそのような状況に遭遇する可能性を持っていることを自覚しなければなりません。だからこそ、常に、悩み苦しむ人の存在に気付けることが重要であると考えます。将来に関して不透明・不安定なことを見聞きすると暗い気持ちになることもあるかもしれませんが、あきらめず、希望をもって、誰もが幸せになるためにどうすればよいか、私たちは考え続ける必要があります。

その際に重要なことの 하나가、多様性を尊重し、多様性を受け容れることができる社会を目指すことにあると考えます。他者との違いを認め、自分にはない他者の特徴を受け容れることや自分とは異なる考えを受け容れることで、相互に補い合うことも、助け合うこともできるでしょうし、結果として社会全体がより良い方向に進むものと考えます。そのような社会を目指すことが大切であり、そのためにも国際情勢や政治経済など世の中の動向にアンテナを張り、正確な情報に触れ、それを深く洞察し、いま自分にできることは何なのか、自分は何をなすべきなのかを、自分自身をしっかりと見つめながら、考え続けていただきたいと思えます。

さて、皆さんは、佛教大学でいろいろな知見を手に入れ、免許や資格を取得し、専門に関わる優れた技術を身につけ、そしてさまざまな経験を積まれたことと思います。本学での学びを通じて皆さん自身が獲得された力は、皆さん自身を決して裏切ることはありません。社会がどんな状況になっても、その力は生きていく上で大きな糧となるでしょう。大学生活で得た経験と学びに自信を持ち、佛教大学を卒業・修了したことに誇りを持って、目の前の道を一步一步着実に歩んでください。皆さんの着実な歩みは、未来へと確実につながっています。一人ひとりが未来の種となり、種が縁によって育まれ、そして実を結ぶとき、そこに明るい未来が開けます。皆さんの着実な歩みが、これからの明るい未来を形成することになるのです。小さな種が、未来に大きな光を放つことを信じて、どうか誠実に、

そして明るく前向きに歩み続けてください。

本日で一旦、皆さんの学びは終了しますが、時代の変化はとても速く、社会は想像をはるかに超えた早さで変わっていきます。VUCA と称される予測不能の時代にあっては、社会の変化に対応するために、新たな学びが必要とされる時が必ずやってきます。また、現在は生涯にわたって学び続けることが求められる社会でもあります。刻々と変化する社会において、求められる力を発揮するためには、学び直すこと、学び続けること、そして考える力にさらに磨きをかけることなどが必要となってくるでしょう。そのようなときにはぜひ、佛教大学に帰ってきてください。本学には大学院、通信教育課程、オープンラーニングセンターなどがあり、人生の様々なニーズに相応しい多様な学びの場が用意されています。そして、悩んだり迷ったりしたときは、焦らずに立ち止まり、振り返ってみることも必要です。皆さんの学びの原点である佛教大学で、私たちは、いつも皆さんを見守っています。そして、教職員一同、皆さんの再訪をいつでもお待ちしております。

明るい未来に希望を託し、自信と誇りを持ってご活躍されることをお祈りし、告辞といたします。

ご卒業・修了、おめでとうございます。

令和5年3月18日

佛教大学長 伊藤 真宏